

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第7号(11月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に発生に注意》

【きゅうり】 **コナジラミ類(タバココナジラミ:退緑黄化病)**

《11月の予報概要》

A 果樹

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
果樹類全般			果樹カメムシ類		

B 野菜

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類全般				シロイチモジトウ	
				ハスモンヨトウ	
				オオタバコガ	
			アブラムシ類		
ねぎ				ネギアザミウマ (えそ条斑病)	
きゅうり		べと病			
		うどんこ病			
			褐斑病		
			アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ:黄化えそ病)		
					コナジラミ類 (タバココナジラミ:退緑黄化病)
あぶらな科 野菜			根こぶ病		
			菌核病		
		コナガ			

《(参考) 大阪管区気象台 10月24日(木)発表「大阪府の季節予報-1か月予報」》

気温	低い(10%)	平年並(10%)	高い(80%)
降水量	少ない(10%)	平年並(40%)	多い(50%)
日照時間	少ない(40%)	平年並(40%)	多い(20%)

(<https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area type=offices&area code=270000>)

A 果樹

1 果樹類全般

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	並～ やや多い	[予報の根拠] ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)は、平年並だった。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

B 野菜

1 野菜類全般

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い ～多い	[予報の根拠] ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・10月のキャベツおよびねぎの巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。 ・卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	やや多い	[予報の根拠] ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・10月のキャベツの巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。 ・卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
オオタバコガ	やや多い ～多い	[予報の根拠] ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。

オオタバコガ	やや多い ～多い	・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し処分する。
アブラムシ類	並	[予報の根拠] ・10月の黄色水盤調査における発生は見られなかった(平年並)。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

2 ねぎ ※ねぎは令和5年7月より巡回調査を開始したため、前年値との比較で予報しています。

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	やや多い	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、発生は前年よりやや多かった。 ・11月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ネギアザミウマはえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。

3 きゅうり

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・11月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・気温20～24℃で発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)、SDHI 剤(ベジセイバーなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・11月の気温は高い・日照時間は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・施設栽培で、日照不足、やや乾燥時に発生が多い。 ・昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)、SDHI 剤(ベジセイバーなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・11月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温、多湿の施設栽培で発生が多い。 ・初期防除が重要である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビー、シグナムなど)、SDHI 剤(パレード、ネクスターなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ:黄化えそ病)	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、アザミウマ類の発生は平年並であった。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミナミキイロアザミウマは、発生初期に、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。さらに、きゅうり黄化えそ病等のウイルスを媒介するので防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い 0.4mm 以下の白色ネットまたは0.8mm以下の赤色ネット)を展張し、成虫の侵入を防止する。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・きゅうり黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろり、にがうり等に感染する。 ・MYSV に感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。 ・生育初期の感染による被害が大きい。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
コナジラミ類 (タバココナジラミ:退緑黄化病)	多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、コナジラミ類の発生が平年より多かった。 ・一部ほ場で退緑黄化病の発生が確認されている。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミによって、退緑黄化病が媒介される。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い0.4mm)を展張し、成虫の侵入を防止する。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。 ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

4 あぶらな科野菜(キャベツ、ブロッコリー、こまつな等)

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
根こぶ病	並	[予報の根拠] ・10月のキャベツの巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・11月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・あぶらな科野菜の連作を避ける。 ・土壌水分が多いと発生しやすいので、排水対策を行う。 ・土壌pHが低い(酸性)と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH7程度に調整する。 ・発病株は見つけ次第根ごと抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
菌核病	並	[予報の根拠] ・10月のキャベツの巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・11月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・なばなやレタス等、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。 水田との輪作は防除効果がある。
コナガ	やや少ない	[予報の根拠] ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年より少なかった。 ・10月の予察灯調査における誘殺虫数は、平年より少なかった。 ・10月のキャベツの巡回調査では、発生は見られなかった(平年よりやや少ない)。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生初期に防除を行う。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

LINE 始めました! 週1回程度、病害虫や大阪エコ農産物制度に関する様々な情報をお届けします。

こちらより友達登録:<https://works.do/R/ti/p/byogaichu@bojo>

大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

<https://www.pref.osaka.lg.jp/oi20090/nosei/byogaicyu/index.html>

病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループメールサービス担当

<https://www.jpnp.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>

おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当

<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>

Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。